

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900330		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 金木屋 1F		
所在地	〒021-0012 岩手県一関市宮前町14-9		
自己評価作成日	令和7年1月31日	評価結果市町村受理日	令和7年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春・秋のドライブや通院以外の外出支援が今年もできていませんが、壁飾りなどの制作活動に力を入れ、季節を感じて頂けるように創意工夫し、余暇活動、レク活動では個々に合わせながら皆様で楽しんで日々の生活を過ごしていただけるよう取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、一関市役所と県道14号線を挟んで北側に位置する2ユニット(2階建)のグループホームである。旧来からの住宅地にあり、東隣にはマンションが1棟ある他、周辺には商業施設、コンビニエンスストア、医療機関、保育所、交番、神社などがあり、社会資源に恵まれた環境下にある。事業所では、開設当初から「思いや願いを大切にします」「暮らしを支え、安心をお届けします」などの運営理念を基本に利用者支援に努めている。コロナ禍やその後に引き続き感染対策もあり、地域とのつながりや運営推進会議の集合開催が中断している。「暮らしやすい地域を共に考えていきます」とする運営理念に基づき、運営推進委員の活用や事業所の行事などを通じ、地域との相互交流や相互支援を図りながら、地域に開かれた事業所として歩んでいくことが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム 金木犀 1F

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に掲示し、意識しながら、支援を行うようにしている。	運営理念は、開設時に代表と管理者が考案したもので、事務室向かいの廊下壁に掲示し、パンフレットにも記載している。三つの目標のうち、『思い』や『願い』を大切にします」を実践するため、日々の介護やお茶の時間に利用者に寄り添うことを心がけている。「暮らしやすい地域を共に考えていきます」は今後の課題としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、毎月広報誌を届けて頂いている。コロナウイルスやインフルエンザの感染拡大予防の為、今年度も交流はないものの、ご近所の方とお会いした際は挨拶を交わしている。	町内会に加入し、地元区長が宮前町内会と市の広報紙を届けてくれる。東側に1棟マンションがある以外は旧来からの住宅が多く、近隣にはコンビニエンスストア、病院、交番、神社、保育所などもある。コロナ禍以前の地元やボランティアなどとの交流事業は途切れたままとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域の方に向けて特に何も出来ていない状況である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス・インフルエンザの感染拡大予防の為、開催は行っておらず、ホームの状況報告を書面にてお知らせや公表を行っている。	今年度の運営推進会議は、法人の感染予防方針により集合開催を見合わせ、委員に資料を送付する書面開催として実施している。事業所作成の資料を送付するのみで、意見や要望、各委員からの情報収集は現状で行われていない。管理者は、各委員の協力や情報収集の必要性に照らし、今後取り組みたいとしている。	事業所力向上や地域とのつながりを強化していくため、運営推進委員の追加委嘱や感染防止に配慮した集合形式の会議開催が望まれます。書面開催の場合でも、委員の意見や要望などを集約する取り組みが期待されます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、電話にて問い合わせや相談をさせて頂いている。直接伺う事もある。	運営推進会議委員には、市役所担当職員に委員を委嘱している。介護認定の更新手続きなどの際には、介護支援専門員が窓口に出向き、顔の見える関係づくりに努めている。生活保護担当者との関係も強化できている。なお、管理者は、地域包括支援センター職員との連携や活用の重要性も理解している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム 金木犀 1F

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を視聴し、理解を深めている。また、定期的に職員に聞き取りなどを行い、現状把握に努めている。	身体拘束防止の委員会は、職員を委員として開催している。インターネット情報などの資料を活用し、職員が講師となって正しい理解に努めている。スピーチロックについては、日常的に気になる場合は両ユニットとも職員間で注意喚起を行っているが、必要に応じて管理者が指導することもある。日中は玄関の施錠を行わず、19時から翌朝4時30分の間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を視聴し、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を視聴し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容について十分に理解して頂けるように、ご家族へ時間をかけて説明しており、そのうえで契約手続きを行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や要望がある時は、担当職員と相談している。なかなか意見等を言い出しにくい場合も考えられる為、玄関にご意見箱を設置している。	運営に関して、家族や利用者からの要望は殆どなく、ご意見箱も活用されていない。遠隔地居住の家族が多く、介護計画見直しの際に意向や要望を伺っている。入居を「入院」と思っている利用者から「退院いつなの？外出したい」などと話されることもあるとしている。家族と話したいとの利用者の希望には、電話で声を聞けるよう支援している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム 金木犀 1F

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	例年であれば毎月の会議にて、意見や提案を聴く機会を設けているも、今年度は職員が集まっていた会議を控えている為、必要に応じて個別に話を伺う機会を持つようにしている。	両ユニット共に職員から業務の中で情報交換や利用者支援の提案がある。1階浴室の除湿機やボットが壊れ購入した例もある。福利厚生の要望への対応は難しい面もあるとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や、自信ややりがいを持てるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に資格取得を促すとともに、研修を視聴して学ぶ機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上の為、外部研修へ受講を促している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査後、アセスメントを行い、希望を取り入れ、利用者様が安心して生活できるように同じ目線に立ち、寄り添う介護に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望や要望を傾聴しながら、利用者様がその人らしく生活が送れるように、ケアサービスに出来るだけ反映されている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：認知症高齢者グループホーム 金木犀 1F

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査・ケアプラン立案では、利用者様がもっとも支援してほしい事をサービスとして導入している。支援方法については、生活過程の中で、その方の変化や状況に合わせて対応方法を変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや広告チラシを使用した箱作りなど、その方が出来ることを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1か月分のホームでの様子を記録したものを、毎月ご家族様に送付している。また、必要に応じて、面会時や電話連絡にて状態報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染やインフルエンザ感染の拡大防止の為、現在は直接会っての面会は基本的禁止しているが、電話などで話をさせていただくことがある。	両ユニットとも利用者は合併前の町村出身者が大半を占め、仙台や東京などの遠隔地に居住する家族が多く、平均的な面会頻度は3か月に1回、多い場合でも月1回程度となっている。コロナ禍を挟み馴染みの人との面会や馴染みの場所の訪問は、難しい状況にある。週1回来所し健康管理を行う看護師や隔月毎に来所する訪問理容師が、新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブルでは、気の合う人を隣にしたり、必要に応じて職員が間に入り、交流が深まるように努めている。集団での関りが難しい方には、職員が個別的に関りを多く持ち、状況に応じて孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方でも、ご家族様にお会いした際には、近況や状態をうかがうなど行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム 金木犀 1F

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ないか会話をしながら、希望等確認している。困難な場合には、日々の様子や言動などから、本人の思いを読み取るように努めている。	運営理念の一つに『『思い』や『願い』を大切にします』と掲げ、両ユニットではそれぞれ居室担当者を決め、把握した思いや意向などは、担当者から介護支援専門員へ伝えている。2階のユニットではブレインストーミングの方式で、利用者の気になる点などをテーマとして思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査の際に、ご本人様やご家族様から生活歴や暮らし方趣味などを伺い、把握に努めケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表や記録を活用し、把握に努めている。また、毎月居室担当と確認し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の希望等を取り入れ、介護計画を作成している。また、日々の様子や変化について意見を出し合い、介護計画に反映させている。	入居後の介護計画の見直しは6ヵ月毎としている。毎月のモニタリングを居室担当者が行い、このモニタリングに基づき3ヵ月毎に職員全員が集まってカンファレンスを行っている。カンファレンスでは、介護計画に位置付けられているサービス内容ごとに丁寧に話し合われ、話し合いの内容も記録として残している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録等に毎日記録しており、介護計画の見直しに活かしている。また、職員への聞き取りなどにて、職員間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の希望にて、訪問美容室や訪問診療を利用する方もいる。また、かかりつけ医への通院支援を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム 金木犀 1F

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の訪問美容室に来ていただいております、希望者が利用している。また、かかりつけ医への受診や、調剤薬局を利用・相談することにより、不安なく暮せるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は基本的に職員が同行しており、受診結果に変わりがある際は、ご家族様に報告している。訪問診療を利用している方もいる。	利用者は、入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。月1回の受診に仙台在住の家族が同行する利用者があるものの、多くの家族の居住地が遠隔地や事業所から遠い地域にあるため、受診には職員が対応している。投薬の変更があった際は、家族に電話で連絡している。皮膚疾患の1名が訪問診療を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に同法人内の看護師が来所しており、健康管理を行っている。状態について相談し、必要に応じてアドバイスをいただくこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナウイルス感染予防の為、病室への訪問は難しい為、ご家族様や医療機関と情報交換を行い、協力を得ながら、速やかな入退院の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や看取りについて、指針に沿ってご家族様に説明している。看取りについては現在希望している方はいないものの、希望者がいる場合は、医師や看護師の助言を得ながら、場合によっては同法人の施設の協力を得るなどして支援していきたいと考えている。	事業所での看取り対応はこれまで無いものの、入居利用者が重度化し不意の対応が想定され、職員の対応力の向上が必要になってきている。入浴介助時に浴槽を跨ぐことが難しくなったり、医療管理が必要な状態となった場合には、家族や主治医と相談しながら特養などの施設の紹介等を支援している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：認知症高齢者グループホーム 金木犀 1F

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、職員に周知、事務所にも提示している。また、同法人内看護師と連携し、24時間相談できる体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。また、地震や災害に備えて食料や飲料水の確保をしている。	春には火災避難訓練、秋には日中に夜間想定避難訓練を実施し、訓練には民間の委託業者が立ち合っている。ハザードマップ上で、早期の立ち退き避難が必要な区域に指定されており、想定訓練の追加や近隣住民との協力体制の構築など、管理者は新たな取り組みの必要性が必要としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の性格や個性に応じて声の大きさや言葉遣い等に配慮し、利用者様の目線に合わせ、意見や話を傾聴しながら接している。利用者様に合ったお声掛けを行い、不安等を起こさないように心がけている。	利用者への声掛けは、主に下の名前が珍しい苗字の利用者には苗字に「さん」付けで行っている。異性介助や相性など配慮が必要な場合には、利用者の意向を尊重している。雑巾縫いや編み物、書道などの趣味や若いころから手掛けていた手仕事を今も行っている利用者が多い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や思いを傾聴し、楽しく生活できるよう心掛けている。お声掛けや対応に工夫しながら取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活習慣等に配慮し、その方の生活ペースを大切にしている。できるだけ、利用者様が出来ること、したいことを行っていたいいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪・洗面・髭剃り等、必要に応じてお声掛けや介助を行っている。肌に化粧水やクリームなどを使用している方もいる。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム 金木犀 1F

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きのお手伝いをして頂くなど、食事の準備を皆で行うこともある。メニューは決まっているが、苦手な食事がある場合、他の食材に代替するなどの対応をとっている。	主菜、副菜は、3食とも前日に系列事業所からチルド処理のものが届き、事業所では汁物とご飯を作っている。季節の行事に合わせた行事食も届くが、敬老会のご馳走は事業所独自の献立としている。利用者は日常的にテーブル拭きを手伝っているほか、手作りおやつで夏のかき氷や、はんぺんを入れたお好み焼きを作り、また郷土食の餅料理の代わりにずんだ里芋を楽しんでいる。季節の梅干しや干柿づくりも利用者が職員と一緒にやっている。その楽しそうな利用者の様子は「お便り」に掲載され家族に届けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分チェック表を記録し、各利用者様の状態を把握している。食べにくい食べ物は大きさや形態を工夫するなど等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きのお声掛けをし、必要に応じて介助を行っている。義歯使用者には、毎日洗浄剤を使用し、清潔を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握し、お声掛け、トイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレ使用、トイレ誘導、オムツ交換等、利用者様の状態に支援している。	両ユニットとも布パンツ使用、リハビリパンツ使用、パット併用など、利用者の排泄状況に応じて対応している。夜間にオムツを使用する利用者は1階1名と2階2名、居室でポータブルトイレを使用する利用者は両ユニットとも1名となっている。1階では複数介助の利用者が1名いるが、できるだけ日中はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、排便チェックを行っている。また便の状態や量等を観察し、状態によってかかりつけ医から処方された整腸剤や下剤を、看護師に相談し調整している。毎日朝牛乳を提供している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム 金木犀 1F

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を支援している。入浴前にバイタルチェックを行い、その日の体調や気分、状態を確認して対応している。基本的に入浴日は決まっているが、その日の入浴が難しい場合は、翌日と交換などして対応している。	入浴は、両ユニットとも日曜日以外の午後1時半から3時半頃に2人から3人ずつとし、冬至の柚子湯や5月の菖蒲湯などで季節感を楽しんでいる。誘導から脱衣、入浴、着衣まで職員がマンツーマンで支援し、湯温や長湯など好みに合せた入浴支援を行っている。浴槽をまたげない利用者はシャワー浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後と昼食後に休息の時間をもうけて、ベッドで静養して頂いている。リビングで過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更がある場合には、連絡ノートや口頭で職員に説明している。また、処方箋等で副作用についても把握に努めている。服用時には、他職員と名前等を確認し、確実な服薬に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみや新聞紙たたみ等の作業のお手伝いを頂くこともある。季節ごとに作品を作成している。テレビを観ながらの体操は日課となっている。季節に応じて、野菜をプランターで育てたり、梅干し作りなども行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今現在はコロナウイルス感染・インフルエンザ感染拡大防止の為、日常的な外出支援は出来ない。お花見や紅葉ドライブなど季節を感じる際は、ホーム以外の方となるべく触れ合わない形で外出支援している。	各ユニット毎に、事業所にある車2台を利用して春には花見、秋には紅葉狩りのドライブに出かけている。事業所南側の駐車場が広くゆったりとしたスペースが確保され、定期的な外気浴、お茶会などのミニ外出や近隣への散歩などが出来る環境にある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持しているご利用様はいるが、実際に使用する機会はなく、必要な支払い等はホームが立て替えている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：認知症高齢者グループホーム 金木犀 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にご家族様に電話をかけられるように支援している。会話後は安心されている様子がみられ、ご家族様との会話を楽しまれている。ご自分で書いた塗り絵はがきをご家族様に送る方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは南向きで日当たりも良く、利用者様が外を眺めたりすることがある。季節感を感じて頂けるように、壁には利用者様と一緒に作成した作品や書道作品を飾っている。	両ユニットとも白を基調とした同じ設計となっている。天気の良い日の日中は、明るい陽射しがホールに入り、組み合わせを工夫できるテーブルを上手に活用している。ひな祭りを意識した作品が多く飾られ、騒音もなく廊下も広く、居室やトイレへの移動空間もゆったりとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様で過ごせるように席を工夫している。場合によっては席をかえたり、会話をしたりテレビを観て過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・家具・ソファなど、利用者様ごとに居室に持ち込んでいただいている。ラジオを聴いて過ごしている利用者様もいる。	エアコン、ベッド、大きなクローゼット、入口側に洗面台が備付けられている。入口ドアには、どの居室にも高齢者に好まれる和風の格子模様の装飾が施され、落ち着いた演出がなされている。介護用品や夏物冬物の衣類も十分に収納できる大きなクローゼットがあり、居室内はスッキリと使用でき、ホール同様明るく清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2か所あるトイレの場所が分かるように大きな表示をしている。場所が分からなかったり、戸惑いが見られる利用者に対しては、必要に応じてお声掛けするように心掛けている。		